



救急車を呼ぶか迷ったときは…

「救急電話相談」を活用しましょう

令和6年の常陸大宮市の救急車要請での出動件数は2,546件で、昨年と比べ、約140件増加しています。今後も、人口の高齢化、病気の種類や傾向の変化などの影響で、出動件数が増えると予想されます。救急車が本当に必要な人のもとに向かうためには、皆さんの救急車の適正利用へのご協力が必要です。しかし、いざ急病になったり、ケガをしたとき、「救急車を呼んでよいのだろうか?」と悩む方もいるかと思います。そこで、今回は、救急車を呼ぶか悩んだときに活用できるサービスをご紹介します。

救急車を呼ぶか迷ったら、「救急電話相談」を活用!

救急車を呼ぶか迷ったときに電話相談できる「救急電話相談」を活用してみましょう。救急電話相談とは、医師、看護師、トレーニングを受けた相談員などが電話口で症状などを聞き取り、「緊急性のある症状か」や「すぐに病院を受診する必要があるか」などを判断してくれる電話サポートです。緊急性が高いと判断された場合は、すぐに救急出動へ取り次ぎを行ってくれます。

15歳以上は「おとなの救急電話相談」、15歳未満は「こどもの救急電話相談」に連絡しましょう。

15歳以上は  
**#7119**  
(おとなの救急電話相談)



15歳未満は  
**#8000**  
(こどもの救急電話相談)



事前に調べたいときは、スマートフォンアプリ「Q助」で!

スマートフォンアプリ「Q助」では、症状を選択していくと、救急車を呼ぶべきケースか、様子を見るべきケースかを教えてくれます。有事はもちろん、持病のある人などが想定されるケースについて、通報の必要があるか事前に調べるといった使い方もできます。考えられる事態に対して、どのように対処すべきか知っていると、もしものときに落ち着いて適切に対処しやすくなります。



全国版救急  
受診アプリ  
**「Q助」**

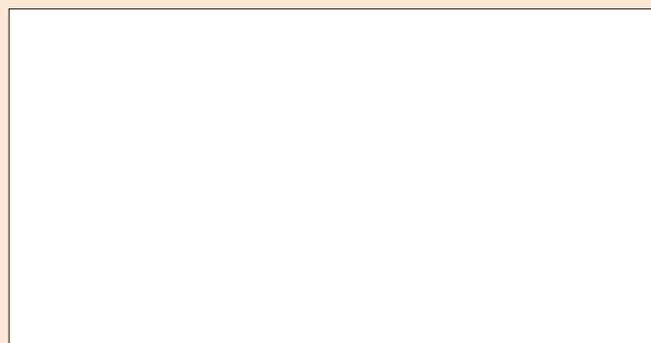




◀ ios アプリ  
ダウンロード



◀ Android  
アプリダウン  
ロード



**広報常陸大宮・ひたまるアプリ  
掲載広告募集中!**

【広報紙】  
半枠(45mm×85mm)、全枠(45mm×175mm)  
【ひたまるアプリ】  
スマートフォン通知、アプリ内に1週間記事掲載  
詳しくは企画政策課(☎52-1111 内線311)までお問い合わせください。